



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

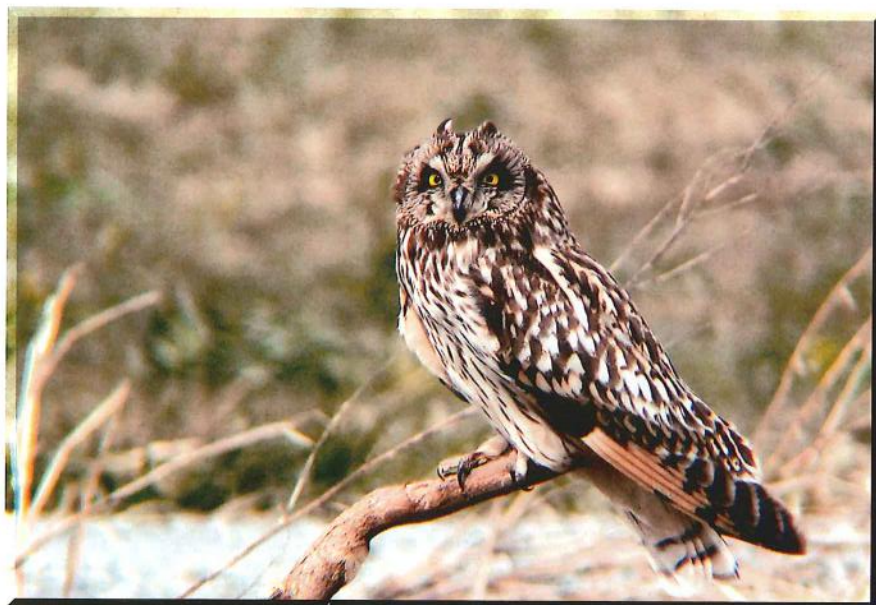
# しらこぼと

## 2008.2

No. 286

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 「秋水田んぼ」のささやかな成果

海老原美夫(さいたま市)

## ●「冬水田んぼ」と「秋水田んぼ」

「冬水田んぼ」という農法があります。宮城県の蕪栗沼周辺、田尻町などで特に活発に行われています。「冬期湛水田」とも呼ばれ、稲刈り後に水を入れ直し、冬を通じて春までそのままにします。それに不耕起栽培、無農薬無化学肥料農法などを組み合わせ、ガン・カモ・ハクチョウ・シギ・チドリなどの餌場・ねぐらとなる生きもの豊かな環境を保全し、かつ、付加価値の高い米の生産などを目指すものです。

「秋水田んぼ」というのは、私の造語です。冬の間乾燥した生物層の薄い景色が広がるさいたま市西部、大久保農耕地を見ながら、稲刈り後暫くの間水を入れ直してもらえたら、「冬水田んぼ」には遠く及ばないまでも、少しは生きもの豊かな環境に近づくことができるのではないかと考えました。そこで、シロハラクイナの保護や野鳥の会会員たちの農業体験でお世話になった農家の高野博明さんに、さらに無理を言って、神子田(みこだ)の一部に水を入れ直していただき「秋水田んぼ」と称し、それによる野鳥の観察頻度の違いを比較してみたものです。

## ●実験田の状況

さいたま市桜区塚本の荒川河川敷、荒川総合運動公園の南に位置する南北約60m、東西約10m、広さ約600㎡の水田です。全体としてはほぼ長方形ですが、北端は半円状の形を



水入れ作業

しています。東・北・西側は池や水路につながるアシ原で、他の田んぼに接しているのは南側だけ、その田んぼも高野家のものです。また、実験田は周辺水田の水が池に落ちる最後の所に位置していることから、他の田んぼが水を落とした後にまた水を入れ直しても、周辺にしみだしたりして迷惑をかけることがない状況でした。今年この田んぼでは、農薬や化学肥料を通常の半分以下にする特別栽培米が作られました。

## ●水入れの方法

この農耕地全体(私たちは埼玉大学野鳥研究会の呼び方を借用して「大久保農耕地B区」と呼んでいます)は、通常1ヵ所の井戸からポンプでくみ上げた水を、水路を通して配水しています。この実験のためだけに、B区全農地用のポンプや水路を使うことは出来ませんので、田んぼの北側にある水路から、エンジンポンプで水を入れました。

## ●稲刈りから水入れ、田起しまでの経過

稲刈り前は、コンバインが入れるように田んぼをある程度乾燥させ固めなければなりません。その行程を経て、実験田の稲刈りは9月2日(日)でした(本誌2007年11月号)。

その5日後の9月7日(金)に台風9号が襲来して、河川敷全体が最大3m程度冠水しましたが、9月17日(月)にはほぼ例年通りの状態に戻りました。

実験田への第1回水入れは9月24日(月)に行われ(=左写真)、1時間弱で10cmほどの水深になりました。日にちの経過で少しずつ水は減り続けましたが、少なくとも田んぼのどこかに水たまりがある状態を保ち、10月14日(日)に第2回の水入れをしました。12月11日(火)に田起し作業をして、「秋水田んぼ」の試みは終了しました。

## ●観察と比較の方法

実験田は東側約 70~80mの堤防の上から見下ろすことができます。そこから観察し、実験田とその周辺 2~3 m以内で観察された鳥種を、実験田での観察としました。

比較のひとつは時期的比較です。稲刈り(9月2日)から第1回水入れ(9月24日)までが約3週間ですから、その期間の主に土曜日曜と、第1回水入れ後3週間の10月14日(日)までの主に土曜日曜の観察結果を比較しました。今回の時期的比較は、水のある場合とない場合の比較と言うより、ほとんど水のある状態が続く中で、ある一定期間の前後の比較になりました。

また、場所的比較として、水入れした実験田とその他の田んぼとも比較しました。この場合は、水のあるなしでの比較でした。

### ●水入れ前後の時期的比較の結果

「水との関係はあまり考えられない」種と「水との関係が考えられる」種に分けて、水入れ前後の増減を比較した結果は次表の通りです。「水との関係」や増減は、かなり主観的な判断が入っています。

減った7種の内、カルガモを除く6種は、季節的な要因で減少したことは明らかであり、

表 水入れ前後各3週間の比較

		水との関係はあまり考えられない	水との関係が考えられる
水入れ前からいた	増減なし	ヒバリ スズメ キジ ムクドリ キジバト ヒヨドリ ハシボソガラス カワラヒワ	バン ゴイサギ ハクセキレイ シロハラクイナ カワセミ
	減った	ツバメ オオヨシキリ セッカ	ヨシゴイ イソシギ コチドリ カルガモ
	増えた		タシギ ダイサギ チュウサギ コサギ
水入れ後に入った		モズ ウグイス ホオジロ オオジュリン ホオアカ	クイナ



クイナ

カルガモは台風による冠水で池のような状態になった時に入り、その後通常の状態になると入らなくなったものです。ですから、7種とも、水入れのために減少したものではありません。増えた4種は、いずれも水入れによって入ったと言って間違いのないでしょう。

水入れ後に入った6種の内、ウグイス、オオジュリン、ホオアカの3種は季節的な要因によるもので、水入れとの関係はあまり考えられませんが、注目すべきはクイナです。これも当然季節的な要因がありますが、何と言っても水がなければ入らなかった種です。今回の「秋水田んぼ」の象徴的な存在と言っても過言ではないと思います。(水入れ後間もない時期にヒクイナを見たという情報も聞きましたが、私自身は観察しておらず、写真等の客観的資料もないので、表には入れませんでした。)

### ●水入れなし一般田との場所的比較

実験田の南約 100mに位置する同程度の広さの田んぼと比較しました。実験田に水入れた後もそちらは乾燥化が進み、2~3週間後には田起し作業が行われました。その結果、ヒバリ、スズメ、キジ、ハクセキレイ、カワラヒワが稀に観察されるだけになり、実験田との差はあまりにも明らかでした。乾燥化によって増えた種はありません。

冬水田んぼを大規模に行っている蕪栗沼周辺などに比べるとまことに微々たる試みで、成果もささやかなものでしたが、何かをすれば野鳥はそれに応じてくれるという、確かな手ごたえを感じた秋でした。

# 野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

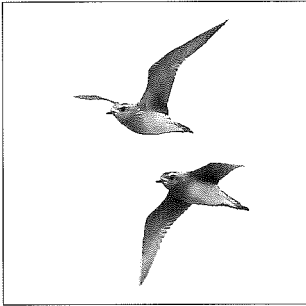
## ●オオチドリ

英名 Caspian Plover

学名 *Charadrius asiaticus*

分類 チドリ目チドリ科コチドリ属

2007年10月16日15:40頃、本庄市内利根川坂東大橋下流500m付近で、森田文三郎氏が撮影。10羽の群れで南方(埼玉県側)から飛来、上空でひと回りして北方(群馬県側)に飛び去ったとのこと。



寄せられた写真のうち1枚を当委員会が調整(=左写真)。それにより、足が尾から突出していること、翼下面・体下面

の状況、眉斑などから、オオチドリとして記録すべきものと判断しました。本種は過去に県内での記録はなく、県内初の記録(321種目)です。

日本に飛来する亜種オオチドリ(*C. a. veredus*)はバイカル湖南東のモンゴルから中国北東部で繁殖すると言われていますが、その繁殖生態の詳細は知られていません。スダ列島・オーストラリアで越冬します。亜種オオチドリ(*C. a. veredus*)を別種(*Charadrius veredus*)として、英名 Oriental Plover と呼ぶ説もあります。学名を *Charadrius asiaticus*、英名を Oriental Plover としている図鑑もあります。

## ●カリガネ

英名 Lesser White-fronted Goose

学名 *Anser erythropus*

分類 カモ目カモ科マガン属



2007年11月20日正午頃、越谷市向畑、古利根川堂面橋下流700m右岸で、植平徹氏がカリガネ6羽を発見して写真撮影(=上写真)しました。6羽とも顔の白色部が小さいので、幼鳥または若鳥と思われます。20~21日は同所に滞在、22~23日約3km下流の越谷市増林地区に移動、24日以降は発見できなかったとのこと。

本種はロシアからスカンジナビア半島の極北部で繁殖し、日本にはマガンやヒシクイに混じって少数飛来します。県内では、1939年2月に越谷市内の宮内庁鴨場付近で捕獲されたのを最後に記録は途絶えていましたが、62年後の2001年2月、戸田市彩湖に1羽飛来して数日間滞在、多くの人によって写真などが撮影されました(本誌2001年4月第204号で既報)。今回は更に6年半ぶりの飛来であり、希少例として報告します。

## ごめんなさいコーナー

① 先月号P4「2007年冬 カモ科調査」に以下を追加します。種ごとの個体数合計、調査者数の修正もお願いします。

・芳沼(深谷市=旧川本町、埼玉県農林公園そば) マガモ95、カルガモ87、コガモ215、オカヨシガモ17、オナガガモ2、ハシビロガモ8、ホシハジロ68、キンクロハジロ49 調査者数1

・大沼(熊谷市=旧江南町) マガモ17、カルガモ84、コガモ5、ヒドリガモ23 調査者数1

② 同P5「野鳥記録委員会の最新情報」の中の「ロードハウス島」を「ロード・ハウ島(英名 Lord Howe Island)」と訂正します。



## 野鳥情報

**春日部市倉常** ◇9月13日、休耕田でタカブシギ4羽、アオアシシギ1羽、コアオアシシギ3羽、アカアシシギ1羽、セイタカシギ2羽、イソシギ8羽など。9月14日、セイタカシギ2羽、コアオアシシギ3羽、アカアシシギ1羽、イソシギ4羽、トウネン1羽、オジロトウネン1羽、コチドリなど。上空及び電線にショウドウツバメ。9月15日、セイタカシギ2羽、コアオアシシギ3羽、アカアシシギ1羽、トウネン1羽、オジロトウネン1羽、アオアシシギ1羽、オグロシギ幼鳥1羽、コチドリなど。9月18日、オジロトウネン2羽、トウネン1羽、クサシギ3羽、タカブシギ2羽、イソシギ、コチドリなど。畔にタシギ1羽(鈴木紀雄)。

**春日部市中野** ◇9月24日午後12時30分頃、秋の刈り田にチュウサギ、アマサギ、ダイサギの混群92羽+が昆虫を求めて飛来し、盛んに採餌。黄緑色の田んぼにシラサギ集団は壮観です。チュウサギが最多、次にアマサギ約30羽+、ダイサギは少ない。コサギは集団から離れて、単独で行動していることが多い。午後12時55分、住宅地の上空を旋回しつつ、チョウゲンボウ2羽、モズの高鳴きにも似た「キィキィキィキィキィキィキィ」という声を交わしながら、南方へ飛び去る(石川敏男)。

**松伏町魚沼** ◇9月13日、ムナグロ20羽、ジシギ類4羽(鈴木紀雄)。

**蓮田市笹山** ◇9月16日、チュウサギ冬羽11羽、コサギ2羽、ダイサギ4羽、アマサギ29羽、ハクセキレイ。サギは稲刈り後の田んぼでバツタをとっていた(本多己秀)。

**幸手市平野** ◇9月17日、アマサギ60羽+、チュウサギ16羽。9月24日、チュウサギ10羽、ダイサギ3羽、ヒバリ、ハクセキレイ。ツバメ30羽が群れて飛んでいた(本多己秀)。

**幸手市下吉羽** ◇9月17日、アマサギ56羽、チュウサギ6羽(本多己秀)。

**宮代町山崎** ◇9月17日、アマサギ54羽+、

チュウサギ3羽。ちょうど刈取機で稲刈りをしていて、その前後に10羽以上のアマサギがまとわりついて、バツタとカエルを食べていた。これからの渡りのエネルギーを貯めているのだろう。夢中で餌をとっていた(本多己秀)。

**宮代町岡泉** ◇9月24日、チュウサギ40羽が田におりていた。中には、カエルを飲み込んでいるものもいた。コサギ2羽。この時期、この地区一帯は圧倒的にチュウサギが多くなる(本多己秀)。

**越谷市七左町八丁目** ◇9月19日午前8時30分、シラコバトが電線にとまり鳴いていた。モズもすぐ近くにいた(小菅靖)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇9月22日、キビタキ♀2羽、ようやく見つけた。ヒヨドリが全く見られず。9月23日、キビタキ♀1羽のみ。やはりヒヨドリいない。9月24日、シジュウカラ群中にムシクイ類1羽、おそらくセンダイムシクイ。ヒヨドリ姿なし。9月25日、ようやくエゾビタキ2羽発見、ミズキの実にたかる。奥の方でキビタキ♂1羽、腰、喉の黄、久しぶり。他にヒタキ類1羽、トケン類(編集部註・カッコウ科の鳥のこと)2羽追いかっけ合い(1羽は赤色型)。ヒヨドリようやく2羽見る。9月26日、キビタキ♀2羽+、ヒタキ類2羽、ツツドリ1羽。上空ツバメにモビングされつつ上昇するサシバ1羽。9月27日、飛翔するムクドリ群中にコムドリ1羽。茂みにキビタキ♀1羽。10月3日、キビタキ♀5~6羽、エゾビタキ5羽が飛び交う。ツツドリ若鳥1羽、ハイタからしき猛禽飛翔。元荒川でコガモ9羽、マガモ2羽。10月4日、キビタキ♂2羽♀3羽+、エゾビタキ1羽、コサメビタキ2羽、上空をツバメとともに飛ぶアマツバメ1羽。10月5日、キビタキ♂1羽♀2羽+、エゾビタキ3羽、ツツドリ若鳥1羽他、トケン類不明種1羽。10月6日、数日前から声が聞こえるように感じていたが、ようやくカケス2羽確認。キビタキ♀3羽。元荒川でヒドリガモ5羽初認。10月8日、キビタキ♀3羽、エゾビタキ1羽、トケン類1羽。10月10日、キビ

タキ♂1羽♀1羽、ヒタキ類2羽、トケン類1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区野孫** ◇10月15日、刈取り後の田んぼのひとつにケリ17羽が集まっていた(鈴木紀雄)。

**さいたま市見沼区深作遊水池** ◇9月22日、チュウサギ8羽、カルガモ10羽、カワウ12羽、カイツブリ2羽、モズ1羽、ヒバリ1羽、ハクセキレイ2羽。アシ原に入っていくとバサバサと飛び立ったのはゴイサギ幼鳥でした。更に道を行くとまたもやガサゴソと出てくる鳥?あり。しかし、それは鳥ではなく、イタチでした(本多己秀)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇10月2日、ノビタキ6羽、頭の黒っぽい♂と♀と思われる個体、さらに若鳥らしき個体、全体で6羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇10月2日、C区でノビタキ2羽(鈴木紀雄)。

**川口市西新井宿** ◇9月28日、キビタキ♂1羽♀2羽。最初は♀しか見えなかったが、じっと待っていたら♂も出てきてくれた。オオルリ1羽、頭部は褐色だが、翼や尾は見事なまでの青色。若鳥だ。キセキレイ2羽、こちらは渡りの途中というより、越冬個体(須崎聡)。

**北本自然観察公園** ◇9月29日、ヨタカ♂。桑の枝に横たわって、時々目をパチクリ。9月27日初認、10月5日終認とか。2005年10月にも同所でヨタカが出たが、そのときは♀だった(榎本秀和)。

**鴻巣市小谷荒川河川敷** ◇9月30日、アオアシシギ3羽、ツルシギ8羽。コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ等カモ多数。そうこうするうちにクルマの右前輪が泥水の中にズブズブ。とうとう「人の道」を踏み外してしまった。10月6日、先日懲りて徒歩で探鳥。トウネン2羽、エリマキシギ♂2羽♀1羽、コアオアシシギ2羽、コチドリ多数、カモちらほら。ショウドウツバメの群飛、30羽ほどの渡りのヒヨドリが2群、ミサゴ♂1羽。10月8日、アオアシシギ10数羽の群れの中にコアオアシシギ2羽。エリマキシギ♂4羽♀1羽、タ



ヘラサギ 2007年12月27 茨城県菅生沼  
(松村禎夫)

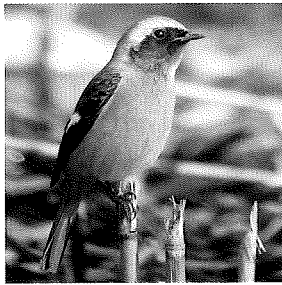
カブシギ5羽、クサシギ5羽、ヒバリシギ1羽。亜種チュウダイサギ30数羽がひしめく中に、亜種ダイサギが数羽。背の高さ、嘴の長さ、腰の高さ、体全体の「つくり」のゴツさが全然違う。ハシビロガモの群れ。10月13日、マガン7羽、関東地方では珍しい。アメリカウズラシギ1羽、これも珍鳥だ。多数のバードウォッチャーが集まっていた。アオアシシギ23羽、コアオアシシギ2羽、ツルシギ1羽の群れ。また、アオアシシギ11羽、コアオアシシギ1羽、ハマシギ5羽の群れ。他にオジロトウネン2羽、エリマキシギ♂2羽♀1羽、ウズラシギ、ヒバリシギ、イソシギ各1羽、タカブシギ4羽+。20羽ほどの渡りのヒヨドリ。ツバメ1羽。コガモ、マガモ、ハシビロガモの群れがドンと入る。10月14日、マガンは見られず、昨日のカモ群ももういない。アオアシシギ17羽、コアオアシシギ1羽、ツルシギ1羽、ハマシギ10羽の群れ。アメリカウズラシギまだいる。トウネン、オジロトウネン、ヒバリシギ、エリマキシギ、タカブシギ、クサシギ。30羽ほどのヒヨドリ2群。ここは台風等で冠水するとシギが付くお楽しみ場所だが、特にこの秋はシギの当たり年だったようだ(榎本秀和)。

**狭山市入間川広瀬橋上流** ◇10月5日、ノビタキ10羽。活発に飛び回り採餌。数が多いのでスズメとみまがうようだ(久保田忠資)。

**表紙の写真 フクロウ目フクロウ科トラフズク属コミミズク** 日中草むらに身を潜めていましたが、夕方になってやっと全身を見せてくれました。2007年2月、利根川河川敷で撮影。鶴飼喜雄(深谷市)



## 行事案内



ジョウビタキ(大坂幸男)

### 狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月2日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き8:56発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星

見どころ：昨年はアカウソ、青い鳥、黄色い鳥とカラフルでした。今年はどんな色の鳥たちが迎えてくれるのでしょうか。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：雑木林にカラの混群。メジロの群れは要注意、キクイタダキが混っているかも。アシ原にはカシラダカ、ベニマシコ。静かに歩けばクイナも…。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：2月3日(日)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅行き8:31発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：越冬中の猛禽類と小鳥たち、カモとの出会いを楽しみに歩きます。冬枯れで調節池が見通せます。

### 嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月9日(土)

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越8:03発、寄居8:12発に乗車。

担当：後藤、喜多、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、林、千島

見どころ：昨年はアカゲラ、アオゲラをはじめ36種が確認されました。今年も同じコースで探鳥してみましよう。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、大澤、森本、倉崎、高橋(ふ)、  
後藤、新井(巖)、藤田(裕)、栗原、飛  
田、千島、鶴飼

見どころ：遙か遠くに白き八ヶ岳を望む今  
が、大麻生鳥見の最盛期。冬鳥が勢揃  
いして皆さんをお待ちしています。

### さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(月・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。  
または午前9時20分、市民の森入口前  
(土呂駅東口より徒歩約5分)。

担当：工藤、藤原、浅見、有馬、松村、赤  
坂、青木、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、  
金子、舟木

見どころ：紅梅、白梅、ロウバイが咲き、  
寒風の中にも季節の変化を感じます。  
カワセミ、クイナ、オオジュリン、上  
空にオオタカを期待しつつ、芝川では  
カモたちを観察します。

### 戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月14日(木)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパ  
ーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口2番バス乗り  
場から、下笹目行き8:43発で「彩湖道  
満グリーンパーク入口」下車。交差点  
まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、松村、有馬、赤坂、新部、赤  
堀、馬場

見どころ：この時期、多いときは40種以上、  
少ないときでも30種以上の鳥たちが  
出現しています。今年も期待。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月16日(土)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大  
学行き9:18発バスで「滑川中学」下  
車。(一つ手前の「森林公園南口入口」  
は通過してください。)

費用：入園料400円(子供80円)

担当：喜多、内藤、佐久間、岡安、大坂、

藤掛、青山、後藤、山田(義)、高橋(優)、  
高橋(ふ)、藤澤、中村(豊)、林、宇野  
澤

見どころ：春の気配を感じながら山田大沼  
まで歩きます。鳥合わせ後に植物園の  
ご好意で、普段入れないツバキ見本園  
にご案内します。希望の方は昼食をご  
用意ください(所要約1時間)。セツブ  
ンソウも待っています。

ご注意：集合時間を早くしました。

### 所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月16日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場  
前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、  
持丸、小林(ま)

見どころ：前回は“オオハム人気”で盛り  
上がった狭山湖。今回も珍客万来とな  
れば嬉しいです。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月16日(土)午後3時~4時ころ

会場：支部事務局108号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅  
東口、集合後バスで現地へ。または午  
前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小  
菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、  
須崎

見どころ：芝川の工事も樋管工事を残すの  
みになった。土手のお陰でカワセミが  
増え、浅瀬ではバンが餌採り。カモも  
種類と数が増えました。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つ  
きみ荘」内には駐車できません。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王



バス9:10発、伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵、北川、岡田  
見どころ：草原に遊ぶ鳥、大空を舞う鳥、そして水辺に休む鳥を見ながら、河原を歩きます

ご注意：仮設トイレはありますが、駅などで済ませておきましょう。

### 東松山市・物見山探鳥会

期日：2月23日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光バス鳩山ニュータウン行き8:51発、9:01発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：藤掛、島田、岡安、志村、後藤、増尾、高橋(優)、林、中村(豊)、山田(義)、増田

見どころ：昨年はエナガ、ミヤマホオジロ、ベニマシコなどが観察されました。今年も心おどる鳥の出現を期待します。

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月23日(土)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：公園ではカワセミやジョウビタキ、荒川土手に向かう途中ではカシラダカやツグミなど、土手ではオオタカの飛翔も期待。

### 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、



マヒワ(寺添捨男)

中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、原、藤澤、山口

見どころ：春も間近です。カモ類はペアが成立、旅立ちの準備が始まっています。芽吹き始めた植物も見ながら、冬鳥を楽しみ、タゲリも期待。

ご注意：駅東口から西口に変わりました。改札を出て左方向に約100mです。

### さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前、集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場(国道16号側)。

交通：東武野田線大宮8:18発、または春日部8:18発大宮行きで岩槻下車。

担当：長野、吉安、玉井、田中、石川、長嶋、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：地元で「槻の森」と呼ばれて親しまれている公園です。昨年12月の探鳥会ではアリスイ、ヤマガラ、カワセミなどが見られました。今回はベニマシコやルリビタキ、エナガにも期待しましょう。

### 深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：新井(巖)、小池(一)、倉崎、藤田(裕)、大澤、小淵、北川、鶴飼、岡田

見どころ：市街化が進む中で何とか残っている自然、大切に守りたいですね。唐沢川、滝宮神社、仙元山と鳥を探して歩きます。嬉しい出会いを期待して。



## 行事報告

8月26日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 58名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ バン ハジロコチドリ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ コオバシギ オバシギ キリアイ アオアシシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト カワセミ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (40種) 潮回りが良すぎて干潟一面に鳥が散らばる。キリアイ、コオバシギ、ハジロコチドリなど珍鳥が次々と出るので、なかなか終了できないほどだった。猛暑の中、参加者の皆さんの熱心さに驚いた。(杉本秀樹)

9月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 39名 天気: 晴

カワウ ダイサギ アオサギ トビ ハイタカ ノスリ サシバ クサシギ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 日本一暑い熊谷。空にノスリ、サシバ、ショウドウツバメ、梢にモズの高鳴き、足元にはヒガンバナ、センニンソウ。季節は秋になった。(島田恵司)

9月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、島田貴子、志村佐治、千野安以、増尾隆

9月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 64名 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ バン キジバト カワ

セミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 残暑はきびしかったけれども空の青さと代用水の桜並木に吹く風は秋だった。期待したサシバは飛ばなかったがサギ類が5種出現し、カワセミも芝川を飛んだので満足する。体調不良の参加者が出たが、コースも時間も短縮してみんなに対応。三室は良い仲間たちで一杯である。(楠見邦博)

9月17日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 22名

青木正俊、青木里美、浅見徹、石井智、海老原教子、海老原美夫、大勝学、大川力、岡田あずみ、岡田道子、小林ますみ、鈴木敬、手塚正義、戸塚市菜里、戸塚茂樹、中川敏子、新部泰治、船木数樹、間正理恵、安岡健一、安岡光江、山田東二

9月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 18名 天気: 曇後雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エナガ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 毎回9月は、渡り途中の珍しい鳥に会えるのではないかと期待している。そう簡単に会えるものではないので実現したときの喜びも大きいのだが、今回は空振り。それでも、水辺の鳥、陸の鳥たちちょうど半分ずつ26種を楽しむことができた。(長谷部謙二)

9月23日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 37名 天気: 曇

カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ バン クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ モズ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 夏の猛暑で遅れていたヒガンバナの開花もなんとか間に合って、稲刈り真っ最中の田んぼ道をゆっくり歩く探鳥会となった。出発地の

公園は人が多く、調整池もバンだけ。田んぼにでると、風が強くなったが、その為か、寄り添ったサギの群れがいくつか出来ていて、大中小はもちろん、アマサギ、アオサギと5種類を相互に比べながら観察。単独行動のゴイサギも親鳥と幼鳥の比較出来るなど、サギの勉強会となった。また、中川にはコガモのつがいに来ており、今季では初認という人が多かった。シラコバトやノビタキは出なかったが、三連休の中日にふさわしく、スローライフ実践の探鳥会だった。(田邊八州雄)

10月7日(日) 北本市 石戸宿

参加:65名 天気:晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オオタカ ノスリ コジュケイ バン キジバト カッコウ科不明種 カワセミ アカゲラ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ メジロ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 出発直後、ふれあい橋北側、目の前にカワセミが止まっていて、全員でじっくり観察。振り向けば、木の上でモズが高鳴きと幸先良かったが、その後鳥が少ない。下見で確認していたヨタカも2日前に渡去した模様で、姿なし。予定より早く学習センターに戻り、2階から高尾の池のカモを観察。ヨシガモ(エクリプス)の識別方法を勉強した。(浅見 徹)

10月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加:45名 天気:晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジクサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ アリスイ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ キビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 日差しはまだ強いが日陰はさわやか。休日で行き交う工事車両もなく、暑さから開放された野辺でキビタキ、ノビタキ、運のよい人はアリスイも。渡り往く鳥たちを見送り、秋を満喫した。(手塚正義)

10月8日(月、休) さいたま市 大久保農耕地

参加:37名 天気:曇後雨

カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ オオタカ チョウゲンボウ ムナグロ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) 集合直後に雨となった。ノビタキがよく見られた。猛禽2種、サギ3種。タシギが多数飛び出した。雨のため早く切り上げたが20種出現した。(福井恒人)

10月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加:52名 天気:曇

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト ツツドリ カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 明戸堰にはもうカモが来ているが工事中のフェンスで見にくくなっている。堰へ行くのはあきらめ、ゴルフ場ハウス前からゴルフコースの南側草原を廻る事にした。前半は出現鳥が少なく心配されたが、後半になってツツドリ、オオタカ、ハヤブサと次々に現れ大いに盛り上がった。特に、オオタカの成鳥が枝に止って長時間じっとしてしてくれたので、精悍な姿をじっくり観察する事が出来た。また、河原では浅瀬で水浴びするオオタカも見ることが出来た。(大澤 祐)

10月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:8名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、島田貴子、松村禎夫



ハヤブサ(大澤 祐)



**●アホウドリの最新情報**

2005 年の年末講演会『アホウドリ保護研究 30 年』の長谷川博先生(東邦大学)から、「その後アホウドリは順調に増えています」とのメールが届きました。鳥島における繁殖つがい数が 2005 年 325 組、2007 年 382 組。57 組 18%増加したとのこと。詳しくはホームページ、「アホウドリ復活の軌跡」で検索し、「第 97 回鳥島アホウドリ調査報告」をクリックしてください。

**●さいたま市緑区環境講演会を後援します**

さいたま市緑区在住の楠見邦博監事が、同区環境講演会実行委員会の委員に就任しました。それに合わせて要請を受け、本年 1 月 27 日(日)に予定されている環境講演会(主催:同委員会、後援:さいたま市教育委員会、さいたま市緑区等)に、当支部としても後援の名を連ねることになりました。

**●第 1 回全国ブロック連絡会議に出席**

2007 年 12 月 8 日(土)～9 日(日)の 2 日間、都内文京区の水道会館で開催され、全国 33 支部から 44 名、財団本部から柳生博会長をはじめ 24 名が出席、当支部からは、藤掛保司支部長、海老原美夫財団理事、橋口長和普及部長が出席しました。

1 日目は「公益法人制度改革についての説明と意見交換」「各ブロックからの近況報告」「最近の自然保護上の動き」、2 日目は「2005～2006 年全国の探鳥会実施状況」「探鳥会の事例発表」「全国マナーアンケートの結果」など。橋口普及部長は、埼玉県支部の探鳥会実施状況について事例報告をしました。

**●車上荒らしにご用心**

探鳥会で、公園駐車場に止めていた車が窓を破られる「車上荒らし」の被害が発生しました。あるホームページによれば、車の中に貴重品を置かない、窓ガラスを完全に閉め、

ドアを確実にロックし、なるべく人目につく所にとめる、カーセキュリティー装置も万全ではないが効果がある、万一被害に遭ったときや犯行中の犯人を目撃した場合、直ちに警察に連絡を、とのこと。どうかご注意を。

**●冬鳥調査はがきをよろしく**

調査期間は 1 月 31 日まで。お忘れなく。

**●事務局の予定**

- 2 月 2 日(土) 編集部・普及部・研究部会議
- 2 月 9 日(土) 3 月号校正(午後 4 時から)
- 2 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)
- 2 月 17 日(日) 役員会(午後 4 時から)

**●会員数は**

1 月 1 日現在 2,243 人です。

**活動報告**

- 12 月 7 日(金)～9 日(日) 1 月号校正(海老原美夫・喜多峻次)。
- 12 月 16 日(日) 役員会(司会:田邊八州雄、各部の報告・年末講演会の準備・その他)。
- 12 月 17 日(月)「支部報だけの会員」に向けて 1 月号を発送(倉林宗太郎)。

**編集後記**

この度、神奈川県内で「新種」が確認されたというニュースが入りました。蒸留酒目焼酎科米焼酎属の『たげり』です。次回編集会議の際は、情報及び現物を入手し「1羽、連れて行きたいと思います。…そのうち、大久保農耕地あたりでも米焼酎属の新種が追加されるといいですね。(小林みどり)

今月号の表紙応募作品として、コミミズクが複数の方から送られて来ました。いずれも力作ばかり。中には「まだ表紙に採用されたことがないので、ぜひ」とプレッシャーも。編集部一同散々迷った結果がこの表紙です。ごめんなさい。(海)

しらこぼと 2008 年 2 月号(第 286 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。  
 印刷 関東図書株式会社